

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
平成 13 年春の大会 総会
(平成 13 年 3 月 28 日 12 時~13 時 F 会場)

議 事

1. 部会長挨拶 小佐古敏荘(東大)
2. 平成 12 年度 活動報告(資料 1)
3. 平成 12 年度会計報告ならびに平成 13 年度予算案(資料 2)
4. 学会委員の部会推薦について(資料 3)
5. 平成 13 年度の活動について(資料 4)
6. その他
7. 副部会長挨拶 福井正美(京大)

保健物理・環境科学部会 平成 12 年度活動報告

1. 大会における部会企画

平成 12 年秋の大会 (青森大学)

特別報告 9 月 17 日(日)11:00-12:00, A 会場 (座長: 稲葉次郎、環境科技研)

ICRP の最近の活動 松平寛通 (放射線影響協会)

総合講演 9 月 17 日(日)13:00-15:30, A 会場

(1) 原子力防災と保健物理 (座長: 小佐古敏荘、東大)

1) 原子力災害と放射線防護 加藤和明 (茨城県立医療大学)

2) 事故時の放射線管理 野田喜美雄 (核燃サイクル機構)

3) 緊急時計画における防災対策とその範囲 本間俊充 (原研)

(2) 加速器の放射線管理 (座長: 近藤健次郎、KEK)

1) 加速器解体と放射線管理 榊本和義 (KEK)

2) 大強度陽子加速器計画施設の放射線安全設計 笹本宣雄 (原研)

平成 13 年春の大会 (武蔵工大)

総合講演 3 月 27 日(火) 13:00-15:00; F 会場

ICRP の新しい勧告の動向

基調講演「現在の検討事項に関する報告」 小佐古敏荘 (東大)

コメント「低線量領域の管理と考え方」金子正人 (放影協) 早田勇 (放医研)

「個人線量の管理」占部逸正 (福山大) 野口宏 (原研)

一般シリーズ発表

「ICRP1990 年勧告法令取り入れの放射線防護上の意義」座長 近藤 (KEK)

(1)取り入れに際して考慮されたこと; 木名瀬 (原研)

(2)防護量と実用量; 吉澤 (原研)

(3)内部被ばく管理における参考レベル; 杉浦 (東大)

(4)内部被ばく線量評価コード(INDES 及び IDEC)について; 山口 (原研)

(5)ラドンの濃度限度; 飯本 (東大)

「ラドンをを用いた低線量影響研究の現状と課題」座長 服部 (電中研)

(1)放医研ラドン実験施設の紹介; 山田 (放医研)

(2)生物実験研究の現状と展望; 米原 (放医研)

(3)疫学研究におけるラドン-222 およびラドン-220 測定; 森嶋 (近大)

(4)問題点の整理と今後の課題; 秋葉 (鹿大)

2. 部会が主催または共催した研究会等

「放射線防護分野の現状と今後の課題~IRPA-10 より」

日 時; 平成 12 年 8 月 28 日 13 時~17 時

場 所; 東京大学工学部 (約 80 名)

「環境保健物理 2000」京都大学原子炉実験所専門研究会

日 時; 平成 12 年 11 月 21 日 14 時 30 分~22 日 16 時

場 所; 京都大学原子炉実験所 (約 60 名)

「放射線防護の新しい考え方」東京大学原子力研究総合センターシンポジウム

日 時; 平成 13 年 1 月 12 日 10 時~17 時

場 所; 東京大学アイソトープ総合センター (約 120 名)

第 2 回「環境放射能」研究会 (高エネルギー加速器研究機構 他)

日 時; 平成 13 年 3 月 15 日 9 時~16 日 16 時 30 分

場 所; 高エネルギー加速器研究機構 (約 100 名)

保健物理・環境科学部会
平成 12 年度会計報告ならびに平成 13 年度予算案
(要 総会承認)

(単位 円)

	科 目	平成 13 年度 予算案	平成 12 年度 決算案	備 考
収 入	前期予算繰越金	¥83,564	¥0	
	配付金収入	¥145,000	¥135,000	会員 109 名×90%回収率
	寄付金・賛助金収入	¥0	¥0	
	セミナー売上収入	¥0	¥0	
	その他収入	¥0	¥76,714	セミナー開催残金
	当期収入合計	¥228,564	¥211,714	

支 出	会議費	¥30,000	¥35,000	総会弁当代
	通信・発送費	¥0	¥0	
	会報印刷費	¥0	¥0	
	ニュース印刷費	¥0	¥0	
	雑印刷費	¥0	¥0	
	講師謝金・旅費	¥100,000	¥43,150	H12 年度は秋の大会のみ
	セミナー補助金	¥50,000	¥50,000	
	会員管理費(オコリ-ズ料)	¥0	¥0	
	その他支出	¥0	¥0	
	予備費	¥48,564	¥0	
	当期支出合計	¥228,564	¥128,150	
	当期末収支差額	¥0	¥83,564	

注；本表は平成 12 年 11 月 30 日現在の情報を基に、
平成 12 月 1 日付けで学会企画委員会に提出したものです。

学会委員の部会推薦について

1. 企画委員及び学会誌編集委員の増員について（報告）

平成 13 年度より、企画委員及び学会誌編集委員の保健物理・環境科学分野の委員が 1 名ずつ増員されることが決定した。学会委員の新しい定員数は、

企画委員 ; 2 名

学会誌編集委員 ; 3 名

学会プログラム委員 ; 1 名

となった。

2. 学会委員の推薦方法について（要 総会承認）

運営委員会において以下の推薦手順が確認され、承認された。

現職委員の所属、専門分野のバランスを考慮し、前任者、部会長、副部会長の 3 者による協議で次期候補者を選出する。

運営委員会においてこの候補者の推薦を諮るとともに、その他の候補者があれば調整し、最終的に運営委員会による推薦者 1 名を選出する。

総会において、委員の推薦にかかる承認を得る。

3. 平成 13 年度企画委員、学会誌編集委員の推薦について（要 総会承認）

《現職委員》

企画委員 福井（京大）H10-12

編集委員 山澤（原研）H11-13

飯田（名大）H12-14

プログラム 牧野（筑波大）H11-13

平成 12 年度をもって、企画委員の福井氏が任期満了

定員数の増分を含め、企画委員 2 名及び学会誌編集委員 1 名を部会より推薦

運営委員会の推薦者（案）

企画委員 本間 俊充氏（原研）

近藤健次郎氏（KEK）

編集委員 金子 正人氏（放影協）

4. その他

保健物理・環境科学分野の学会委員（企画委員、学会誌編集委員、学会プログラム委員）には、是非部会運営委員に加わっていただき、最新の情報をご提供いただくとともに、当部会の運営についてご意見を賜りたい（部会長、副部会長提案）。

保健物理・環境科学部会の平成 13 年度活動について

1. 英文誌における部会特集号の企画について

(部会ニュース 15 号より)

英文論文投稿の依頼(英文誌編集委員長より)

以下の通り、英文誌編集委員長より当部長宛てに依頼文書が届きました。会員各位におかれましては、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。また、文書後半にあります部会特集号の発刊につきましては、運営委員会において検討をはじめております。皆様からのご意見もお待ちしております。

(以下、編集委員長より 原文どおり)

今年度の英文論文誌への投稿件数は、昨年度に比べて 40% 減少しております。その影響で、今年 2 月～ 4 月号も辛うじてページが集まり発行できる状態で、薄いものとなっております。特に、1 年の中で 5 月・6 月号は例年、ページ数が集まりにくくなっており、このままいきますと、今年は 5・6 月号の発刊が危ういのではないかと考えられます。一方、すでにご高承のとおり、英文論文誌は、査読のありかたを根本的に見直すなどの改革を行い、投稿から論文掲載までの時間短縮や掲載論文の質的向上などが計られてきております。つきましては、先生が部会長をされている「保健物理・環境部会」のメンバー各位にも事情を周知頂き、ぜひ英文論文誌へご投稿くださいますよう、お薦め頂けますれば幸いに存じます。

また、貴部会のご提案による「特集号」発刊の企画などもあわせてお考え下さいますれば幸いに存じます。ご多忙の折りに恐れ入りますが、原子力学会の発展のため、何卒よろしくご高配のほど、お願い申し上げます。

(平成 13 年 2 月 8 日、英文論文誌・編集長 伊藤靖彦)

2. 学会における企画行事、主催及び共催研究会について